2006年度卒業／2007年度入学記念

どこでもドアのかぎ 11

どこでもドアのかぎ 11

目次

特集　～ワンコイン本～

石原和夫　（食物栄養専攻）…… 3
田中　景　（国際教養学科）…… 3
柳町裕子　（国際教養学科）…… 4
石川伊織　（国際教養学科）…… 6
黒田俊郎　（国際教養学科）…… 10
福嶋秩子　（英文学科）…… 11

―

板垣俊一　（国際教養学科・図書館長）…… 13
小谷一明　（英文学科）…… 14
鶴巻悦子　（図書館）…… 16
田中　景　（国際教養学科）…… 18
曽根英行　（食物栄養専攻）…… 19
小澤　薫　（生活福祉専攻）…… 19
戸瀬幸夫　（幼児教育学科）…… 21
石原和夫　（食物栄養専攻）…… 22
石川伊織　（国際教養学科）…… 22
石井玲子　（幼児教育学科）…… 23
大桃伸一　（幼児教育学科）…… 24
木佐木哲朗　（国際教養学科）…… 25
水上則子　（国際教養学科）…… 25
黒田俊郎　（国際教養学科）…… 26
福嶋秩子　（英文学科）…… 26

第11号アンケートのお願い…… 27

特集

～ワンコイン本～

500円玉一枚でこんな本が買えるなんて！
感激のワンコイン本を集めました
本体500円、税込525円の本もありますが
生協で買えば
ちゃんとおつりがきちゃうのです(^^)

※価格は2007年3月現在のものです

食物栄養　石原和夫

一日江戸人

杉浦日向子
新潮文庫
定価　460円（税込）

現代の江戸人・杉浦日向子による、実用的かつ、まことに奥の深い江戸案内書。江戸美人の基準、三大モテ男の職業、衣食住など、江戸の人々の暮らしや趣味趣向がこれ一冊でわかる。また、漫画家でもある著者の自筆イラストもふんだんに盛り込まれ、居ながらにして気分はもう江戸人だ。（本書カバーの案内文より、改変引用）　楽しい文庫本ですよ。

国際教養　田中景

ハツカネズミと人間

ジョン・スタインベック
新潮文庫
定価　340円（税込）

２０世紀初頭のカリフォルニア。農場を転々と渡り歩く２人の労働者。小柄で賢いジョージと力持ちで子どものように純粋なレニー。対照的な２人は、いつか小さな農場と家を持ち、ウサギを飼って暮らすという夢をあたためている。２人はある農場にたどり着き、そこに働く様々な人々と出会い、やがてある出来事がおこって…。スタインベックの人物や情景の描写は穏やかで、そして物語の運びはとても淡々としています。なのに、最後には自分でも驚くほどに心動かされ、涙が止まらなくなっていることに気が付きます。

国際教養　柳町裕子

新編銀河鉄道の夜

宮沢　賢治
新潮文庫
定価　420円（税込）

「銀河鉄道の夜」をはじめ、賢治の名作が１４作品も入っているだけでなく、それぞれの作品に解説が付いていて、難しい言葉については親切な説明があり、巻末には賢治の詳しい年譜、そして「星めぐりの歌」の楽譜まで載せていて、「この値段にしてこの充実感！」といつも感嘆し、出張先などでつい買ってしまって、うちに３冊あることが判明した本です。

ボッコちゃん

星　新一
新潮文庫
定価　500円（税込）

ショートショート（とっても短い小説）の名手・星新一の自選アンソロジーです。ワンコインで５０作品も入っています。何年前からか、星新一を知っている学生にほとんど出会わなくなりました… 話題にできないと、なぜだか妙にさびしくなってしまう作家です… なので読んでおいてくださるとうれしいです。

はい、こちら国立天文台一星空の電話相談室

長沢 工
新潮文庫
定価　460円（税込）

東京の三鷹市にある国立天文台には、一般の人からの電話や手紙による問い合わせに答える広報普及室というのがあります。これは、そこで働く（かなりキャリアのある天文と地震の専門家だけれど、子どもたちやマスコミからの質問に対して丁寧に、そして正確に答えようとする努力を惜しまない）著者が、その仕事や仕事場の様子についてエッセイ風に語っている本です。文体に著者の人柄が滲み出ています。最初は、「天文」という言葉のイメージと同様、とっつきにくい人かな、と感じるのですが、読んでいくうちに、「広報普及室に遊びに行ってみたいな」といつのまにか思っている自分に気づきました。

ねじの回転

ヘンリー・ジェイムズ
新潮文庫
定価　460円（税込）

最近、日本のある作家が同名の小説を出して売れているようですが、こちらが本家です。ぜひ読んでください。ぞぞっとする小説です。広いお屋敷に幽霊が出ます。そのシチュエーションも怖いですが、もっと怖いのは、この小説を読んでいると、「幽霊がいる」と信じ込む主人公の心理の奥底に迷い込み、いつしか抜け出せなくなっていることです。

国際教養　石川伊織

方丈記

鴨長明
岩波文庫
定価　525円（税込）

「ゆく河の流れは絶えずして……」って、古文の時間に暗誦させられませんでした？でも、原文は実はこうではないのですよ。本当は、「ユク河ノナカレハタエスシテ……」。なに？　片仮名にしただけじゃないかって？　そうです。それだけ。でもそれが重要なんです。だって、片仮名だってことは、漢文の読み下し文だっていうことですから。つまり、オトコの文学ね。漢字平仮名混じりで書かれた、卜部兼好（吉田兼好）の『徒然草』が、オンナの文学を手本にしていたのとは好対照です。岩波文庫の版には、漢字平仮名混じりの読みやすい文と、一番古い写本から起こした漢字片仮名混じりの文と、その写本の写真版リプリントが収録されてます。ウソかホントか、この写本、「右一巻者鴨長明自筆也」だそうです。残念ながら、好対照の『徒然草』はとっても長くて、500円では買えません。

ルバイヤート

オマル・ハイヤーム
岩波文庫
定価　483円（税込）

著者は11世紀のペルシャの詩人。この頃のヨーロッパは文化的にも経済的にも、世界の中での後進地域に過ぎませんでした。イスラム諸国やアジアの方がはるかに高度な文化を誇っていました。ルバイヤートとはやペルシャ語で「四行詩」という意味。世の無常と生の無意味を歌う美しい詩句には、お前は何のために生きているのだ？と問いかける厳しさがあります。ところで、「まあ、一杯飲め！」という詩句がたくさん出てくる詩集なのだけれど、イスラムって、お酒は飲んじゃいけないんじゃなかったっけ？　戒律の理解と実際というのにもいろいろあるんです。原理主義ばかりがイスラムじゃない。それに、原理主義って、もともとゴリゴリのキリスト教過激派に付けられたあだ名だったんです。ブッシュの宣伝に乗せられないで、もっと広く文化を見てみましょう。

アンティゴネー

ソポクレース
岩波文庫
定価　378円（税込）

ソポクレースの『オイディプス王』と『アンティゴネー』はギリシア悲劇を代表する作品です。で、こちらはオイディプスの物語の後日談。オイディプスが自分の母だったイオカステーとそれとは知らずに夫婦になって、このふたりの間に生まれたのが、娘のアンティゴネーでした。テーバイの国の王位を争って相打ちの結果死んだ兄を、アンティゴネーは、「国家に反逆して死んだ者は、たとえ親兄弟といえども埋葬してはならない」という王の命令を無視して埋葬します。「死者の埋葬こそは族の務めであり、これは王の命令なんかよりもはるか昔から、神々によって命じられてきた掟だ」というのです。家族と国家、死と弔い、女性と男性といったテーマがちりばめられ、後世の研究者たちによって様々に解釈されてきた問題作です。読み手の問いかけに応えて、いかような解釈も受け入れるような、変幻自在な緊張感と美しさを持つ劇的な作品です。あなたなら、どう読みます？　『オイディプス王』も 500 円以内で買えます。1 時間で読める古代ギリシアは、すぐそこ！

変身・断食芸人

フランツ・カフカ
岩波文庫
定価　420円（税込）

ゴキブリとカブトムシは絶対に違うし、カブトムシと玉虫も違うよね。でも、英語では、硬い二枚の羽の下に飛ぶためのやわらかい羽を二枚持ったタイプの「甲虫」はどれも cockroach です。カブトムシの力強さも玉虫の美しさも、英語的にはみんなゴキブリなわけで、これはドイツ語でも同じです。ある朝目覚めたら巨大なゴキブリになっていたグレゴール・ザムザの物語。息子がゴキブリになってしまったことを受け入れられず、ゴキブリと化した息子の存在をないことにしてしまおうとする父親。困惑する家族。最後には、自分たちのために死んでしまってほしいと家族のみんなが思うようになります。グロテスクなんだけれど、家族のある一面を暴いてはいないでしょうか。カフカは、19 世紀末、オーストリア・ハンガリー二重帝国治下のチェコのプラハに生まれて、ドイツ語で作品を書いた作家です。訳書は、山下肇さんの旧訳を娘の萬里さんが改訂されたもの。ぜひ、萬里さんの「あとがき」を読んでください。テキストと真剣に向き合うということの意味が分かってきます。

李陵・山月記・弟子・名人伝

中島敦
角川文庫
定価　500円（税込）

『山月記』は国語の教科書に出てきたりしているので、知っている人は多いでしょう。いろいろな出版社の文庫にも収録されています。今回、角川のものをお勧めするのは、他の出版社の中島敦作品集には収録されていない沙悟浄の物語、『悟浄出生』と『悟浄歎異』が納められているからです。悟浄は、俺は何のために生きているのだろう、人生とは何だろうか……と考え、悩んでいます。これを中島敦は「病気」と言います。『山月記』の李徴が自分の中にある激情を飼いならすことが出来ずに「病気」になり、虎に変身してしまったのと同じです。中島敦は、人間の思惟や自意識といったものを「病気」と考えていたようです。『李陵』の雄渾な筆致と、『名人伝』の飄々とした文章との中間にあって、悩みに満ちてはいるのになぜかあっけらかんとした文体は、中島敦の面目躍如といったところ。

地獄の季節

アルチュール・ランボオ
岩波文庫
定価　420円（税込）

一読しただけでは、ちっとも分からないかもしれません。でも、何度も音読してみてください。詩の力というのが分かります。「……まだまだ前夜だ。流れ入る生気とまことの温情とは、すべて受け入れよう。暁が来たら俺たちは、燃え上がる忍辱の鎧を着て、光りかがやく街々に入ろう……（「別れ」訳書 51 ページ）」。何と理解したらよいのか、いまでも読みに迷いながら、怒りがこみあげるたびに、私はこの詩集を引っ張り出します。そして、分からないながら、この一節にたどり着いて、ぐっとおなかの底に力を入れて、「忍耐で武装する」のです。怒りを語れ、ムーサよ！

ベニスに死す

トオマス・マン
岩波文庫
定価　420円（税込）

現実逃避のためにやってきたベネツィアのラグーンで、美少年に執着して破滅していく、老作家のお話。これがお話になりうるのは、老作家が執着しているのが美少年だからなんでしょう。もし執着の対象が美少女だったら、単なるロリコンになっちゃいますから。じゃあ、美少年の追っかけだったら、美少女の追っかけをするよりも犯罪性・倒錯性が少ないのかというと、そうでもありません。だって、主人公は、美少年に同性愛的な執着をしている自分を必死に弁解してるんですもの。弁解するっていうことはやましいからです。やましいのは、これが反社会的な倒錯だっていう思いがあるからです。しかし、それはやましいことなんだろうか。この老作家が破滅してしまうのは、行為そのものより、行為についてのやましさのせいです。では、何でこの行為はやましいのでしょうか？　謎です。

職業としての学問

マックス・ヴェーバー
岩波文庫
定価　420円（税込）

「とりあえず、四大に編入を……」と思っている進学志望の学生諸君には、一度は読んでもらいたい本です。学問をするっていうのはどういうことか、それを考えてからでなくては、実際、進学してほしくはないんですね。いや、別に私は「職業として」学問をしたいわけではないから……という声も聞こえてきそうですが、そういう言い訳は18歳で普通に大学を受験するときまでしか通用しません。だって、そこそこ勉強した上で、さらに何かしたいというのが、編入試験を受ける動機であるはずですから。他の就職組が実社会で労働している時に、職業につくかわりに勉強してるんだから、少なくともこの2年間は、職業として学問しているようなものです。進学するなら、「とりあえず」ではなく、本気で学んでください。学ぶことと実生活とのギャップと接点とをしっかり考えてください。

舞姫・うたかたの記

森鷗外
岩波文庫
定価　483円（税込）

『舞姫』で描かれているのは、どうやら鷗外の実体験らしいということになっているのですが、鷗外はどういうつもりで、自分の留学中の不実な恋愛を作品にしたんでしょうか？　読むたびにそこが分からなくなる作品です。一説には、鷗外は本気で踊り子と結婚するつもりで、日本への渡航費用も鷗外が負担していたのに、一族や日本陸軍（何しろ鷗外は陸軍の軍医ですから）の圧力があって、不実な結果になるしかなかったのだ、とも言います。日本の近代化の使命を追った当時の知識人の国家的責任と、江戸時代以来の封建的な家制度の中での家長としての責任と、自由で自立した個人としての生。この作品の背景には、単に、不誠実で優柔不断な男の物語と言ってしまうには余る、複雑な背景があるようです。あなたなら、どう読みますか？　鷗外が言文一致の文体を開発する以前の擬古文で書かれているので、読みにくい作品ですが、一読の価値はあります。一緒に収録されている『うたかたの記』は、バイエルンのルートヴィヒ二世（シンデレラ城のモデルになった南ドイツのノイシュヴァンシュタイン城を築いた王様）の変死（自殺？）をめぐる物語。

国際教養　黒田俊郎

二十歳の原点

高野悦子
新潮文庫
定価　420円（税込）

高校時代、とても感銘を受けた本です。読むたびに、彼女の息遣いを身近に感じ、いろいろなことを考えたものです。やさしくて激しくて、混乱しているけど理知的で、そしてとても静かな、怒りと祈りに満ちた本だと思います。説明が後になってしまいましたが、この本は、当時立命館大学の学生だった著者の１９６９年１月２日（彼女の二十歳の誕生日）から６月２２日までのノートをまとめたものです。彼女は、２２日のノートに一篇の詩を書き残し、二日後、自死を選んでいます。正直言って、この本の内容が今の若い人たちの心にすっと入っていくかどうか、とても心配なのですが、新潮文庫でいまだ版を重ねているという事実を信じて、勇気をだして紹介してみましょう。

英文　福嶋秩子

スタイルズ荘の怪事件

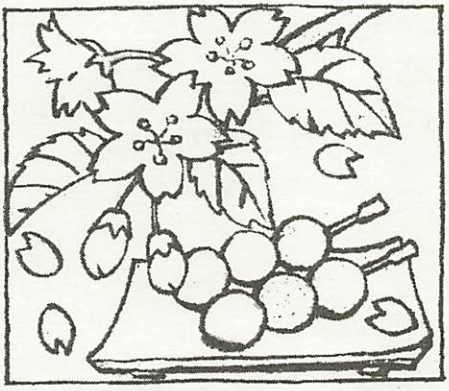
アガサ・クリスティ
新潮文庫
定価　500円（税込）

ねずみとり

アガサ・クリスティ
早川文庫
定価　525円（税込）

中高生時代にミステリーにはまった。大学生のときには、英語の勉強をかねて原書でミステリーを読んだ。ペーパーバックが安く手に入るクリスティは格好の教材だった。

まずは日本語で読んでみようという人に２冊お勧めする。１冊目はクリスティの処女作で名探偵ポワロ第１作、２冊目は今もロングランが続く戯曲である。



残念ながら500円では買えないけど

おすすめの本

国際教養・図書館長　板垣俊一

和本入門：千年生きる書物の世界

橋口侯之介
平凡社

今回は、本についての本を紹介します。私は日本の古典を専攻していますので興味をもって読んだのですが、一般の読者には内容があるいは縁遠く感じられるかも知れません。しかし、本がどんどん読み捨てられてゆく現代、そして日々刊行される物としての本自体もせいぜい百年保つかどうかという時代に、今もなお数百年以上の時を経て生き残ってきた「和本」という書物があることを知ってほしいと思います。「和本」の紙は西洋紙ではなく和紙です。また文字はインクではなく墨で書かれています。昔は読みたい本があったらそれを人から借りて手書きで写し取って自分のためのたった一冊の本を作った人々がいましたが、江戸時代になると同じ本を何部も印刷する出版が盛んになります。とくに今日の出版文化を創り上げたのは、江戸時代の印刷出版業でした。その時代にはたくさんの書物が刊行されました。それらがいま古書店で取引販売されているのです。古書店というと、他人が読み古した本を安く手に入れるところにすぎないと考えている人もいると思いますが、昔の「和本」は時に何百万円の値段が付けられて古書店で販売されているのです。本書の著者も東京神田の古書店の店主だそうです。

「和本」の実物を見ないと内容が分かりにくいと思うので、いつか図書館で江戸時代の版本を展示したいと考えていますが、もし関心をもった人がいたら読んでみてください。

英文　小谷一明

私は「蟻の兵隊」だった：中国に残された日本兵

奥村和一他
岩波書店

年明けにシネ・ウインドで映画を観た後、この岩波ジュニア新書を購入しました。映画ではふれられていなかったのですが、扉ページを開けてすぐに「新発田」という言葉が目に入ってきました。主役の奥村さんは、中条の出身で新発田連隊に入営し、山西省に向かいました。ジュニア新書とはいえ、奥村さんの戦後の戦いは十分に読み応えがあります。8.15以降も帰郷できず、中国国民党軍で戦っていた事とその理由は、まさに驚くべきものでした。映画もすばらしいものでした。

「砂」『洲之内徹小説全集』

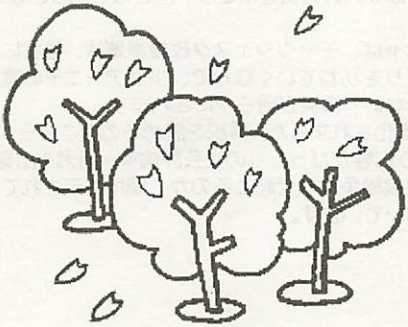
洲之内徹
東京白川書院

洲之内徹の全集はとても高値で取引されており、入手することが困難です。ただし県立図書館に入っていますので、借りて読むことができます。この短編は中国での日本軍を描いています。軍曹である世古（せこ）は、戦場での負傷兵の嘆きに「真情」というかたちの「意識しない装い」を読みとる冷静さを持っています。その世古の部隊に、彼が嫌う監視隊から、最も嫌悪していた冷徹で無口な蛭子（えびす）兵長が送り込まれました。世古は階位の低い兵長に、あえて馬ではなく耳の長い動物を割り当て、軽蔑の気持ちを存分に伝えます。しかしある日、自らの抑制できない内密の悪行を見つけられます。世古は常に無言の兵長が何を考えているのかと悩まされますが、次第に冷徹と思われた兵長への見方にずれが生じてきます。たまたま旅先の日経新聞でこの作家を知り「砂」を読みました。昨年中で一番感動した短編小説でした。

「濁水渓」『香港・濁水渓』

邱永漢
中公文庫

台湾で生まれ東大生となった青年が、中国との戦争を始めた日本で自らの歩むべき道を必死に模索していきます。かろうじて戦中を生き延び台湾に戻ります が、そこでは 17 世紀に後戻りしたかのような政治的混乱が待ち受けていました。そして 2.28 から始まる恐ろしい時代に直面していきます。こうした戦中・ 戦後における、多くの友人、知人との関係や話し合いが、今からは想像もできない複雑な人間関係を浮き上がらせています。恋愛一つを取ってみても、銀行員の女性や下宿先の娘との関係にねじれた実状が入り込み、何度もページをめ くる手が止まりました。幾度も読み返したいと思う本です。古本屋で見つけましたが、残念なことに現在は入手困難となっているようです。図書館にはよく置いてあります。



図書館　鶴巻悦子

ロシア語通訳にしてエッセイストの米原万里は、2006年5月に亡くなってしまいました。仕事柄、図書館の飯田文庫*で出会って以来のファンでしたし、同い年のこともあって、少なからずショックを受けました。その文章はいつも歯切れが良く、どの本も面白おかしく、しかし、ものごとの本質をついています。その中から著者の持つ3つの顔を知ることができる3冊をご紹介します。
＊ロシア語学・翻訳で業績を残された故飯田学長が、蔵書の中から本学の学生のために寄贈されたものです。

嘘つきアーニャの真っ赤な真実

米原万里
角川書店

真っ先に紹介したいのが、大宅壮一ノンフィクション賞を受賞した本書です。
マリこと米原万理は、チェコのソビエト学校（旧ソ連が設けたロシア語で教育するインターナショナル･スクール）で少女時代の5年間を過ごしました。そこで出会った友人3人、おませで愛すべきギリシア人のリッツァ、なぜか他愛のない嘘ばかりつくルーマニア人のアーニャ、優等生で北斎の熱烈なファンのユーゴスラビア人ヤスミンカをめぐる三話です。
日本に帰国して30余年、マリは中東欧の動乱を生きる旧友3人を探しあて、劇的な再会を果たします。マリは3人の人生をたどり、国とは、民族とは、人間とは･･･と問い続けます。
タイトルにあるアーニャは、チャウシェスク政権崩壊後、惨状にある祖国ルーマニアを捨てます。その足どりを訪ねていくなかで、少女アーニャの嘘に隠された「真っ赤な」つまり「まぎれもない」真実が明らかにされます。
本書は2004年に文庫本化されました。解説を読めるのでこちらがおすすめ。書いているのは、“気鋭”という形容がぴったりの文芸評論家、新潟市出身の斎藤美奈子です。愛国心とはなにか、民族紛争はなぜ起こるのか、随所に示されている米原万里のメッセージを端的に読み解いています。

不実な美女か貞淑な醜女（ブス）か

米原万里
新潮文庫

本書は、ロシア語同時通訳の第一人者といわれた米原万里の通訳論です。門外漢の私があえて本書をとりあげたのは、抱腹絶倒のエピソード満載で面白く読むうちに通訳とはどういうなりわい業か、素人にもしっかりと理解できたからです。しかも、通訳という個別具体的な話が、日本語論、教育論、コミュニケーションのあり方等々に普遍化されているからです。

この奇妙なタイトルの「不実な美女」とは、整っていて美しいが原文に忠実でない訳文のこと、「貞淑な醜女」とは、原文に忠実だがぎこちない訳文のこと。そもそも完璧に言葉を置き換えるのは無理、どちらをとるかはケースバイケース、例えば‥‥と続く章のほか、通訳者はなぜあらゆる分野に対応できるのか、その記憶力の秘密とは、通訳・翻訳者に向く性格とは、その国でしか通じない駄洒落を訳すコツは‥‥など、様々な切り口で通訳の難しさと醍醐味を教えてくれます。

言葉を駆使する能力に長けるとは、要するに人間理解の達人であることのようです。著者は「通訳になるにはどれくらいの語学力が必要か」と尋ねられるたびに答えたそうです。「小説が楽しめるぐらいの語学力ですね。外国語だけでなく、日本語でも」。

打ちのめされるようなすごい本

米原万里
文芸春秋

「書評は閉じよ、本を開け」と言った人がいるそうですが、書評本を読むのも楽しいものです。知らない本に手を延ばすきっかけになるだけでなく、こんな読み方もあるのかと目から鱗が落ちることしばしば、また、本を語っている評者が自らを語ってしまう面白さがあります。

本書は『週刊文春』に連載した「読書日記」ほか、亡くなるまでの10年間に執筆した書評を集めたもの。「食べるのと歩くのと読むのは、かなり早い」という著者は、1日平均7冊もの本を読んでいたそうですが、その集中力と記憶力には舌を巻きます。

著者が辛口の時評や悲憤慷慨を交えつつ読み解く140編の書評は、国際情勢から歴史もの（イラク戦争が激化する以降は戦争や民族問題が圧倒的に多い）、古典文学から現代小説、科学ものから食・福祉・環境問題‥‥と様々な分野に及びます。

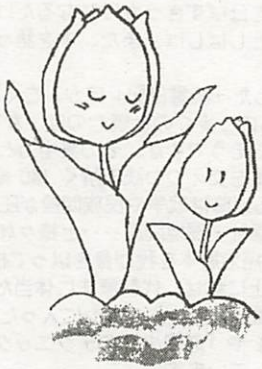
最期の「読書日記」には、「癌治療本を我が身を以って検証」と題して、藁をも摑む気持ちで読んだ本を書評の俎上に載せ、代替療法に体当たりした経過が綴られています。またこの時期「人生の時間がカウントダウンに入った」ことを自覚しながら、『パンツの面目　ふんどしの沽券』や『必勝小咄のテクニック』など、いつもの笑いをふんだんに盛り込んだ本を上梓しています。

国際教養　田中景

「辺境」の抵抗―核廃棄物とアメリカ先住民の社会運動

鎌田遵
御茶の水書房

これまで、アメリカにおける核廃棄物の処理施設は、先住民の居留地に建設されてきました。つまり連邦政府は、かつて 500 を超える多様な部族を一からげに「インディアン」と称して追いやった「辺境」の地に、今日核のゴミを捨てているのです。フィールドワークを通して、著者は「辺境」に生きる先住民たちの処理施設建設をめぐる運動を明らかにしているのですが、その実態は「核を押し付けようとする政府」対「無力な先住民」というような単純なものではありません。部族大統領の独裁的なリーダーシップにより、居留地の経済効果を狙って処理施設の建設を推進するメスカレロアパッチ族と、先祖より伝わる土地信仰を守るため建設反対運動を展開する部族連合体。さらに、複数の部族間にも、また一つの部族内にも賛成派と反対派の対立があります。本書は、アメリカの社会と地理に根付く人種差別の構造の中で、社会的弱者である先住民にも主権を獲得するための戦略があり、そしてその戦いがとても複雑なものであることを見せてくれます。本書と併せて、著者のパートナーの石山徳子氏の著書『米国先住民族と核廃棄物―環境正義をめぐる闘争』（明石書店）もお薦めします。



食物栄養　曽根英行

ケインとアベル（上下）

ジェフリー・アーチャ
新潮文庫

学生時代、読書嫌いを変えてくれたハリウッド映画のような小説。活字の苦手な人は、まずは就寝前の安眠剤として読み始めてみてください。あなたがアーチャ・ファンに変わるのに多くの時間はかからないでしょう。

場所と境遇を違えて生まれた二人の物語。片やポーランド片田舎の私生児、片やボストンの名門銀行家の御曹子。この二人が皮肉な出会いと成功を通じて、第一次世界大戦からベトナム戦争中のアメリカを振り返る小説アメリカ現代史。

色々な要素を持つ作品で、収容所小説、企業の内幕ストーリー、戦争文学、復讐物語、恋愛物語など、長編小説一冊を費やして描かれるべきテーマがいくつも盛り込まれている。

＊詳細は「http://www.jttk.zaq.ne.jp/shig/archer/index.htm」参照

生活福祉　小澤薫

どん底の人びと　ロンドン1902

ジャック・ロンドン
岩波文庫

英文タイトルは“The people of the abyss”。“Abyss”は、深海とか深淵。陸の上に住んでいるのに海底のさらにさらに奥深い所に暮らす人びとって…。時代は1902年、世界一の繁栄を手に入れ“黄金時代”といわれた大英帝国、ロンドンのイーストエンドで暮らす人びとの生活を、実際に生活をともにしながら書いたルポルタージュです。ちょうどこの時期、イギリスでは貧困調査がおこなれ、社会問題として貧困が大きく取り上げられます。こうした実態から社会保障制度の必要性が意識され、制度構築の一歩が築かれました。「5人で千人分のパンが作れるのに何百万人もが飢えているとしたら、この大所帯の切り盛りの仕方に誤りのあることを否定するのは不可能であろう」、そういった問題の本質は、今の日本にも大いに通じるのではないでしょうか。

ヘブンショップ

デボラ・エリス
すずき出版

たまたま立ち寄った図書館の新刊コーナーで、目をひいた「ヘブンショップ」というタイトル。黒人の子どもがやわらかい表情で空を見上げ、白いはとが飛んでいるやさしい表紙とは裏腹に、アフリカの貧困、エイズの問題を正面から取り上げている児童文学でした。棺おけを作る「ヘブンショップ」というお店を経営する父とその家族の物語。エイズで父を失った主人公が、偏見や貧困と向き合いながら成長していきます。アフリカが抱える問題を子どもの目を通して見ることができると思います。

食品の裏側

安部司
東洋経済新報社

これは食に関する啓蒙書です。食品添加物について元食品添加物のセールスマンが明らかにしています。虫をすり潰したとか薬品づけにされたとか廃棄寸前とか読みながら目を丸くしっぱなしでした。「安さ、便利さの代わりに私たちは何を失っているのか」という問いはあらゆる物に当てはまると思います。食品はもちろん、商品の裏側で、誰がどんな生活の中で、どんな思いで作っているのか、なぜこんなに安いのか想像することが、知ろうとすることが、いま求められているのだと思います。

幼児教育　戸澗幸夫

美術館で愛を語る

岩渕潤子
ＰＨＰ新書

この本の帯に「芸術の見方にルールはない！」とあり、本のタイトルが「美術館で愛を語る」である。つまり、美術館鑑賞は美術史を学んだ専門家が行くような敷居の高いところではなく、もっと気軽に作品を楽しみ、美術館を日常の癒しの空間と捉えた著者が、世界的に有名な美術館や穴場的美術館を作品鑑賞だけでなく、近くのレストランやミュジアムショップの利用の仕方など楽しくエッセィ風にまとめた新書本である。外国に行く予定のある人は、この本を参考に予定を立てるのも良いし、行き先を決めるためにもお薦めの一冊です。定価も本体価格７８０円と手頃感があります。とにかく難しい本ではないので是非手にして欲しいと思います。

フェルメール全点踏破の旅

朽木ゆり子
集英社新書

数年前に「真珠の耳飾りの少女」という１７世紀オランダで活躍した画家フェルメールの物語がベストセラーになり、その本の映画化がされアカデミー賞の候補となりました。その話題性もあり、フェルメールは世界中で再評価されています。フェルメールは、現在確認されている作品数が３７点と極めて少なく、その作品は欧米の有名美術館に１～２点ずつと散在し、それぞれの美術館の目玉となっています。フェルメール展としてまとまって一同に見ることはほぼありえないことです。そこで、フェルメールの作品を全点鑑賞するための美術館ガイドがこの一冊といえます。それぞれの美術館の紹介やフェルメールの作品解説や制作の謎などがわかりやすく書かれています。ヴィジュアル版として全作品がカラー刷りで定価１０５０円は、学生・職員問わずお薦めしたい本と言えます。

食物栄養　石原和夫

生き方（人間として一番大切なこと）

稲盛和夫
サンマーク出版

著者は1959年、京都セラミック株式会社（現・京セラ）を設立。社長、会長を経て現在は名誉会長。また、第二電電（現・KDDI）も設立し、現在は最高顧問でもある。
「私たちはいま、混迷を極め、先行きの見えない『不安の時代』を生きています。豊かなはずなのに心は満たされず、衣食足りているはずなのに礼節に乏しく、自由なはずなのにどこか閉塞感がある。やる気さえあれば、どんなものでも手に入り何でもできるのに、無気力で悲観的になり、なかには犯罪や不祥事に手を染めてしまう人もいます。（中略）そういう時代にもっとも必要なのは、『人間は何のために生きるのか』という根本的な問いではないかと思います。ープロローグより」

国際教養　石川伊織

女は見た目が10割　誰のために化粧をするのか

鈴木由加里
平凡社新書

なんで女性はお化粧したりおめかししたりするんだろう？　18世紀のヨーロッパの男性なんて、カツラかぶって髪に金粉をはたいたりして外出していたのに、なんで今の男性はしないんだろう？　著者は、女性がお化粧するのは、決して男性のためじゃないよという、女性にとっては当たり前のことを指摘してくれます。自分に気持ちいいからやってるんだよ、って。でも、自分のためにやっていることが、時に面倒になったり、体や肌によくなかったりするっていうのも、それはそれで困ったことで……。この辺の事情はどうなってるのか、この本を読むと納得できます。

壊れる男たち――セクハラはなぜ繰り返されるのか――

金子雅臣
岩波新書

著者は東京都で労働相談に長年にわたって携わってきた専門家です。《セクハラは女性問題ではなくて、男性問題だ！　なぜなら、問題を起こしているのは自分の性的な行動をコントロールできない男性の側だからだ》というのが、この本の結論。セクハラの告発は加害者とされる男性に対する人権侵害だ、なんていう所謂「人権派」の人たちの主張は、自分の行動の加害者性を自覚できない男性の幼稚な発言である、と著者は言います。女性と男性が同じ教室で学び、同じ職場で仕事をするようになって、女性からの異議申し立てが起こってきました。これまではそんなことに気づかないでも通ってきたのだけれど、もうそれは通用しないし、自分たちの行動に自覚的になって、責任を持たなくてはならないのに、男性には一般にそれが理解できません。男性が壊れ始めています。壊れ始めた自分たちをどうするのか、男性に突きつけられた課題です。

幼児教育　石井玲子

憲法九条を世界遺産に

太田光、中沢新一
集英社

人気お笑いコンビ「爆笑問題」太田光氏と人類学者中沢新一氏の対談。日本国憲法を無邪気な理想論、日米の奇蹟の合作として捉え、「憲法九条を世界遺産にするということは、人間が自分自身を疑い、迷い、考え続ける一つのヒントである」と語っている。また、現代人の感性の鈍化、想像力の欠如についても触れている。何かを見て、聞いて、深く感動する心がないと、日本は駄目になっていくかも・・・。憲法九条を守るべきか？日本国憲法の価値は？など難しくてわからない、と思っている人でも、是非これを読んで考えるきっかけを作ってください。そして、自分自身で迷い、考え続けてください。

幼児教育　大桃伸一

兎の眼

灰谷健次郎
角川書店

昨年亡くなった灰谷さんの代表作。安部総理の下に「教育大改革」が進められている現在、一人でも多くの国民に読んでほしい本です。人の心をあたたくし、真の教育とは何なのかということを深く考えさせてくれます。

夜回り先生

水谷修
サンクチュアリ出版

「夜回り」という深夜パトロールを行いながら、子どもたちと長い間向き合ってきた水谷先生。今、彼の下に心に悩みを持つ若者から多くの相談メールが届いていますが、この本を読むことで、なぜ子どもたちが水谷先生に「心をひらく」のかがよくわかります。自分だけで悩まないで、ぜひこの本を読んでほしいです。

国際教養　木佐木哲朗

日本人の死のかたち

波平恵美子
朝日新聞社

日本人は、<死><遺体><霊>をどのように認識してきたのだろうか。古来、<死者>という存在を信じ、それに語りかけ働きかけることによってその<霊>を祀ってきたが、現在伝統的な死者儀礼はほとんど見られなくなっている。さまざまな死のかたちや死への慣れ親しみ、また死者とは何者かを問い、さらに兵士の慰霊のかたちから靖国神社の問題にも踏み込んでいる本である。資料や調査から得た、死が政治性を帯びることの日本的なあり様あるいは死の政治文化を、文化人類学者である著者が興味深くまとめたものである。

国際教養　水上則子

恋文

女帝エカテリーナ二世　発見された千百六十二通の手紙

小野理子，山口智子
アーティストハウス

世界史に大きな足跡を残したエカテリーナ二世の人物像を見直す「女帝のロシア」（小野理子、岩波新書）は、どこでもドアのかぎ第９号でおすすめしていますが、その本を手にしてロシアを旅する山口智子が、この本の主役のひとりです。そして、豊かな学識でロシア文学を読み解く研究者と、元（？）トレンディ女優とが、エカテリーナについて語り合うのですが、ふたりが彼女に向けるまなざしには、深い理解と共感が込められていて、18 世紀の女帝が一人の女性として生き生きとよみがえり、語らいの場に加わっているようにさえ感じさせてくれます。

国際教養　黒田俊郎

夜の樹

トルーマン・カポーティ
新潮文庫

アメリカの作家トルーマン・カポーティの短編集。孤独な人間の妄執と悪夢を描いた短編とアラバマでの子ども時代を回想した心温まる作品が収録されています。後者のヒューマンなタッチも捨てがたいですが、やはり前者の作品群の魅力は圧倒的です。ニューヨークに暮らす都市生活者の孤独な内面が都市の風景と溶け合い、世界が静かに美しく狂っていく様がそれは見事に描かれています。テイストは、サリンジャーの『九つの物語』に近いですが、サリンジャーに比べると、カポーティはもっとシュールでパラノイアです。「外に出ると、夕闇が青い雪片のように空から落ちてきた。」なんて、なかなか書けるものではありません。川本三郎さんの訳も秀逸です。

英文　福嶋秩子

知らないと恥ずかしい　ジェンダー入門

加藤秀一
朝日新聞社

昨今ジェンダーをめぐる議論がかまびすしい。しかし、誤解と偏見に満ちた意見や見当はずれの意見も少なくない。斜め読みできる本ではないが、根本にもどってジェンダーについて考えてみたい人に本書をお勧めする。

「どこでもドアのかぎ11」アンケートのお願い

どこでもドアのかぎ・第11集の
感想をおしえてください。
以下のアンケートに記入して，生協店舗の
「一言カードボックス」へ！
抽選で50名の方に，500円分の図書カードを
差し上げます。

締切　5月31日（木）

①「どこでもドアのかぎ11」全体についてのご感想・ご意見を書いてください。

②この冊子を見て読みたくなった本があったら教えてください。できれば理由もお願いします。

③他にどんな分野の本を紹介してほしいと思いますか。希望をお聞かせください。

④その他，生協について，教職員委員会・学生委員会について，ご意見や要望があればお聞かせください。

（キリトリセン）

所属＿＿＿＿＿　学年＿＿＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご協力ありがとうございました。

2006年度卒業・2007年度入学記念
どこでもドアのかぎ 11

県立新潟女子短期大学生協
教職員委員会　編
2007年3月20日　発行

表紙イラスト：河栗美香